

インドネシア情報レポート

(2024年5月29日)

(公財)大阪産業局 インドネシアビジネスサポートデスク

PT. JAC Consulting Indonesia

毎年ジャカルタで開催されている日本とインドネシアの友好を深める祭典「ジャカルタ日本祭り（通称JIM）」が今年も開催されることが決定されました。今回は5年ぶりに中央ジャカルタにある屈指の競技場「ブンカルノ競技場」での開催（9月14日・15日）です。JIMは、日本の文化（アニメや音楽、伝統工芸など）を紹介・体験できるイベントになっています。さらに今年は「日本の各地を旅するような体験」をテーマとして、来場者に47都道府県の食や名産品、観光地、昔遊びといった魅力を紹介することが目玉企画となっています。パンデミック後最大の規模となることが予想されており、更なる友好関係・文化交流の進展が期待されています。

今回のレポートでは、現在、世界中から注目を集めているインドネシア首都移転についての最新情報をお届けしたいと思います。そもそも、インドネシアが何故、首都移転を計画しているかという大きく下記3つの理由が挙げられています。

・ジャワ島の人口過多

インドネシア全土の人口が約2億7千万人であるのに対し、そのうちジャワ島の人口は約1億4千万人と50%以上が集中しています。しかしジャワ島はインドネシアの国土面積の約6%であるため、ジャカルタ以外の地域の経済成長が進んでいない事とそれによる格差が生じている事が問題となっています。

・災害的要因

下記のようにジャワ島では災害の歴史が多くあります。

-噴火（ムラピ山（ジョグジャカルタ）、セメル山（東ジャワ））

-地震（2006年ジョグジャカルタ直下地震、約6000人に被害者）

（2022年西ジャワ地震、300人以上の被害者）

-津波（2018年スンダ海峡津波、400人以上の被害者）

・地盤沈下

1997年以来、ジャカルタは毎年高度（標高）が3cm～10cm下がっているとされています。これは住民がジャカルタの地下水を吸い上げている事が原因とされています。

以上の背景からカリマンタン島に首都移転が計画されました。移転先は下記のような土地です。

新首都名：ヌサンタラ（IKN とも呼ばれています）

該当地域現名称：北プナジャムパセル及びクタイカルタネガラ

現状態：大森林で未開拓な地域が多いこのエリア。

特に石炭のマイニングやヤシ油製造、木材・ガス産業が中心の環境です。

東カリマンタン最低賃金（月額）：IDR3,360,858（約3万3千円）

最新の政府発表計画では2025年～2035年にかけて、クラスターを建設・整備していくフェーズとしています。クラスターとしては、「再生可能エネルギー使用に特化したエリア」「ワクチンやジェネリック薬品の製造エリア」「次世代農業に特化したエリア」「エコツーリズムや医療ツーリズムに特化したエリア」「化学材料や化学原料の生産エリア」「脱炭素に特化したエリア」が発表されています。加えて世界的に知名度の高い大学機関や最先端医療を持つ医療機関を誘致、整備するプランを持っています。今年7～8月にはバーチャルレールを走行する空飛ぶタクシーを試験飛行することも発表されており、益々注目を集めています。